

平成 26 年度教育課程編成委員会報告書の措置状況

平成 27 年 3 月 31 日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
校長 井上 貴恭

【平成 26 年度教育課程編成改善方策について】

項 目	改善方策	措置状況	
		対応済み	検討中
① 学力の向上に向けて ア 文章力の向上	<p>通年実習での実習日誌のコメントの作成において書きたい内容の把握や内容の構成、助詞の使い方等文章を作っていくうえでの課題を持つ学生が散見される。実習に向けての事前指導を細かく講義されていることは多とするが、実習指導の機能の問題が挙げられる。少子化もあり学生のレベルも様々で、レポートをどう書けばよいのか、単位をどう取得していけばよいのか解らない学生もいる。文章の書き方指導（5W1H等）とともに文章を書く上での意識すべき事柄についての指導も1学年からすべきであると思料する。</p> <p>国語の授業では、新聞のコラムテキストを活用している授業が報告されている。確かにこの方法は、学生が語彙力を高めたり文章構成を学んだり内容を要約する力をつけたりするのに多くの効果が期待できるが、コラムテキストを利用する場合は、一社のコラムだけに偏するのではなく、他社のコラムも利用して多様な文章表現等を身につけさせることが望ましい。</p> <p>保育者を目指す学生には、読後に目指す保育者を思い描け、保育者の素晴らしさや熱意、読む人の琴線に触れ感動を与えるような内容の本を教員が選んで教材として使用してはどうか。</p>	<p>文章力の向上に向けては、入学した学生の学力レベルも多様な中で、1年次から文章力、表現力等のきめ細やかな指導方法を考えることは、本校の重要課題の一つである。先ず1年次で実施の教科に関する科目（国語）の指導内容を見直し、重点化を図った。また、文章力に関する実習指導の内容との関連を図ることにより、学生にとってより理解が深まるように努めた。</p> <p>国語の授業で多くの効果が期待できる新聞のコラムテキストの活用については、一社のコラムに留まらず他社のコラムも活用して多様な文章表現等を身につけさせる様に努めた。</p> <p>平成 26 年度に「学力向上推進チーム」を編成し、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて文章力の向上について、また、3 年目からは文章力の向上と平行して読解力の向上を図るよう議論した。特に実習日誌を活用して、保育者に求められる国語力の向上を図る議論を重ねた。</p>	

<p>① 学力の向上に向けて イ 文章の内容の向上</p>	<p>主題が明確で内容のある文章の作成指導や、起承転結といった作文の構成指導、原稿用紙の書き方指導等について、国語を担当する非常勤講師とも連携を更に密にして充実してもらいたい。</p> <p>学生が書く礼状等の指導でも手紙文の形式に則ることは大事だが、内容が似通ったものになってしまっており、もう少し自分の言葉で書き手の顔が見えるような文章を書かせる指導をお願いしたい。</p>	<p>文章の内容の向上については、主題が明確で内容のある文章の作成指導や、起承転結といった作文の構成指導、原稿用紙の書き方指導等について、既に非常勤講師とも連携し取り組んでいるところであるが、平成 26 年度開催の「非常勤講師打合せ」の中で分科会を開催し、さらに連携を密にして指導の充実を図っていくこととなった。</p> <p>学生が書く礼状等の指導については、電話のかけ方、手紙文の書き方さえ知らない学生がいるのが現状であることを踏まえて、実習指導において、先ず礼状の書き方について、形式から学ばせている。書き手の顔が見える文章とするために、授業形態にもよるが、国語を中心として、また、他教科においてもなるべく文章の内容の向上に向けた授業展開となるよう繰り返し指導していくこととした。</p>	
<p>② 授業の質の向上に向けて ア 授業評価の導入</p>	<p>学生による授業評価については、当校の自己評価委員会及び学校関係者評価委員会でも実施に向けた提言がなされており、授業の質を高める具体的な取り組みとして、シラバスの作成とともに有効な方法である。</p> <p>授業評価の実施に当たっては、評価される教員も納得できる公正な結果を得るために、先ず学生自身の授業を見る目を育てることが肝要である。</p> <p>授業評価アンケート作成に当たっては、評価の公正を期するために記名又は無記名方式や受講した学生の授業欠席回数、授業受講態度等の項目の設定も検討すべきである。また、アンケートの項目の設定に当たっては、抽象度の高い質問である共通項目以外に、授業担当の教員が設定できる自由項目設定欄を設けては如何か。授業担当教員ならではの具体的な質問項目を設定できることで、アンケート結果を次年度の授業に反映できるからである。</p>	<p>授業評価の導入については、自己点検・自己評価報告書を踏まえて学校関係者評価委員会でも提言を受けており、平成 26 年度中はアンケート用紙の作成及び試行的な実施に取り組む事とした。平成 26 年内中に全教員による調査用紙の作成の為の会議を開き、各教員から様々な意見を取りまとめ、特にアンケート項目の設定には十分な時間をかけ、教務部にてアンケートの作成に臨んだ。</p> <p>平成 26 年度版として完成した実施規程別紙様式 1 の「授業評価アンケート」を使用して、平成 26 年度後期に各学年、各クラスにおいて最低でも 1 回以上の実施を目指して授業評価アンケートを試行的に実施した。</p> <p>今回の実施は、集計や教員個々の改善コメントの提出は見送り、各担当教員にアンケートそのものを参考資料として確認してもらい、今後の授業の改善などに役立ててもらうことに留まった。</p>	

		平成 27 年度の完全実施に向けて更に教務部を中心に小会議を開き、様々な観点より話し合いを持ち平成 26 年度を終了した。	
② 授業の質の向上に向けて イ 常勤及び非常勤教員の協業体制の構築	これまで、常勤教員と非常勤教員が同一科目を授業する場合にあつては、非常勤教員の専門性を重視し、常勤教員との授業内容の統一を踏っていないので、授業内容に若干の差異が生じることを懸念する。今後は、常勤及び非常勤教員が学校の理念や方針を共有し、学生の利益を何よりも大切にして、全校一体となって学生を育てていく協業体制の構築に更に努力されたい。	平成 27 年 3 月に行われた「非常勤講師講師打合せ」にて同一科目を担当する常勤及び非常勤講師との協業体制を図るため各教科の分科会を実施した。当日は、科目の目的やねらいを共通理解し、授業展開について話し合った。	

【平成 27 年度教育課程編成改善方策について】

項目	改善方策	措置状況	
		対応済み措置	検討中
① 学力の向上に向けて ア 文章力等の向上	平成 27 年度も平成 26 年度と同様な学生の文章力及び文章内容の向上に向けた様々な方策を継続して実施すべきである。	文章力等の向上に向けては、教職実践演習の中で、国語力向上に向け 3 コマ、グループ学習（ゼミ単位）による時間を設定し、本校の学生の学力レベルをもとに、文章力、読解力及び表現力の向上を図るために、全てのゼミ担当者で取り組む体制作りを行う予定である。 具体的な取り組みとしては、学生の実習日誌を教材として、わかりやすい文章の書き方について取り組む予定である。	
① 学力の向上に向けて イ 読解力の向上	読解力の向上のためには、学生に保育者に関する書物を読ませることにより、全体の意味や内容を理解させることを大事にしたい。読むことを通して、保育の内容や保育者としての必要な素養等が身につくような書物がよく、学生にとって心の琴線に触れる内容のある書物を教員側が吟味して読ませることが必要である。また、本の	読解力の向上については、学力向上推進チームにおいて、次年度検討課題として取り組むこととする。	

	選択に当たっては、学生にアンケートを取って学生の多くが勧める本を選ぶのもよい。		
① 学力の向上に向けて ウ 表現力の向上	これまでもディベート、プレゼンテーション、ロールプレイ等の手法について演習科目等で行ってきているが、講義科目でも取り入れる他に、学生に討議した自分の考えを発表する場の提供も必要である。	表現力の向上については、これまで演習科目等で行ってきたディベート、プレゼンテーション及びロールプレイング等の手法について、他の講義・演習科目においても取り入れるようにしていく予定である。また、教職実践演習のシラバスを見直し、ロールプレイングやグループ討論等を中心とした授業内容を組み入れて、学生が自分の考えを発表する場を増やすことに努めていく予定である。	
① 学力の向上に向けて エ 教材の吟味	既成の教材の吟味も含めて、当校の学生の実態に適した自主教材の開発に取り組むよう検討願いたい。	教材の吟味については、学力向上推進チームにおいて、学生の実習日誌を題材とした、わかりやすい文章の書き方を学ぶための、学生の学力レベルに即した本校独自の教材開発を行い、次年度に向け更に改善を図っていく予定である。	
② 授業の質の向上に向けて	平成 27 年度については、平成 26 年度と同様な学生による授業評価の完全実施をすべきである。また、常勤及び非常勤教員の協業体制の構築に向けた様々な方策を更に継続して実施すべきである。	平成 27 年度は、4 月 1 日に「学生による授業評価実施規程」を策定し、授業評価アンケートの完全実施に向けて、先ず教務部を中心とした「授業評価実施委員会」を立ち上げ、委員会の実施事項等に沿って審議、検討及び実施していく予定である。 (前・後期の年 2 回の実施。非常勤講師を含めた全学科、全教科、全クラスでの実施等。) アンケートの結果の集計及び分析については、アンケート用紙が約 7,000 枚に及ぶこともあり、その作業の全部を専門の業者に委託する予定である。委託業者の選定については、設問項目の見直しや実施方法、集計結果の抽出、教員個々の改善コメントなどについて、本校の実施委員会と共にコンサルティングしてもらえ業者に仕様書を示して見積依頼をすることとし、委託費が安価であること並びに本校のアンケート調査の目的やねらいに最も相応しい業者に業務委託する予定である。	

		<p>具体的な実施の流れとしては、おおむね試験前の 14 回目の授業の中でアンケートを取り、業者による集計及び分析、学校及び教員個々への集計結果の発送、そしてその結果を受けての教員個々による授業の改善コメントの提出をもって完了の運びとなる予定。</p> <p>平成 27 年度も引き続き、昨年度同様に「非常勤講師打合せ」にて同一科目を担当する常勤及び非常勤講師との協業体制を図るため、各教科の分科会を開催する予定である。内容は、科目の目的やねらいを共通理解するとともに、授業展開について更に踏み込んで、シラバスの内容の統一を図るための話し合いを行う予定である。</p>	
<p>③ 一般常識等の習得に向けて</p>	<p>一般常識はもとよりマナーや立ち振る舞い、言葉遣い、自然の美しさの大切さ、学校生活でのけじめ等について、学生の気質をよく理解して指導すべきである。今は良くても社会に出た場合の感覚のずれやそれから生じる弊害を常識からの側面ではなく学生が納得できる理由を提示しながら伝えていく必要がある。今後、就職及び実習指導の中で更に身につけさせることが大切である。</p>	<p>「学生並びに社会人として求められる一般常識やマナー等には、どのようなものがあるか。」を内容とした自由記述によるアンケート調査を本校教員へ実施し、得られた結果をまとめている。その結果を基に授業資料を作成し、平成 27 年度の就職指導授業内において学生に教授していくこととする。</p>	